

科目名	介護実習Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	160時間	担当者	案納 賀世子		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	病院において看護師として勤務		
対象学科・学年	介護福祉科 2年生						
授業概要	個別ケアを行うために個々のリズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれをふまえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他		
	○	○			コミュニケーション技術を活用した利用者との関りが実践できる		
	○		○		利用者を中止としたチームケアや多職種協働の方法について学ぶことができる		
	○				学校で学んだ生活支援技術が応用されている場面を見学し根拠を理解できる。		
	○		○		多角的に利用者の情報収集を行い、利用者理解を深めることができる		
			○		計画的に実習の課題に取り組むことができる。		
テキスト・教材 参考図書	実習要項・記録						
授業計画	日数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	利用者の名前を覚え、1日の流れを知る			日々の実習記録の記載		
	2	職員や利用者との関りを通して、利用者の特徴を理解する			日々の実習記録の記載		
	3	利用者自ら積極的にコミュニケーションを図ることができる			日々の実習記録の記載		
	4	利用者の思いを引き出すためにコミュニケーションを実践する			日々の実習記録の記載		
	5	介護過程の展開実践のための受け持ち利用者の決定			日々の実習記録の記載・フェイスシートの完成		
	6	利用者の思いを引き出すためにコミュニケーションを実践する生活支援技術実践のための見学を行う			日々の実習記録の記載		
	7	コミュニケーションから情報収集を行う。指導者の指示のもと根拠に基づく生活支援技術の実践			日々の実習記録の記載		
	8	他専門職から得られる情報を収集する			日々の実習記録の記載		
	9	フェイスシート、状況シートを記入し指導者からの確認を受ける			日々の実習記録の記載		
	10	中間カンファレンスを開催し、自身の振り返りを行う			日々の実習記録の記載・状況シートの完成・カンファレンスレポートの作成		
	11	介護過程の実践(アセスメント)1日の流れを理解し自ら進んで業務に参加する			日々の実習記録の記載		
	12	アセスメントの実践 根拠を理解した生活支援技術の実践			日々の実習記録の記載・アセスメント表の完成		
	13	アセスメントを指導者へ確認、指導を受ける 根拠を理解した生活支援技術の実践			日々の実習記録の記載		
	14	不足している情報の収集 レクリエーションなどの企画運営 夜勤業務の実践			日々の実習記録の記載		
	15	不足している情報の収集 自ら考えて様々な業務を見学する			日々の実習記録の記載・個別援助計画の完成		
	16	再アセスメントの必要性について考察 介護福祉職以外の職種について見学等を行い、多職種連携を学ぶ			日々の実習記録の記載・実施、評価の記録		
	17	再アセスメントの必要性について考察 昨日の学びを通して、チームケアについて考察する			日々の実習記録の記載		
	18	これまでの学びを通して、施設の社会的役割を理解する 介護福祉士の倫理観や専門性について考察する			日々の実習記録の記載		
	19	アセスメント実践のまとめ すべての生活支援技術について習熟度の確認			日々の実習記録の記載・プロセスレコードの完成		
	20	最終カンファレンスを開催し、自身の振り返りを行う			日々の実習記録の記載・最終カンファレンスレポートの提出		
評価方法	実習要項にある評価表について下記の尺度で評価。 A自分で行動できる B一度指導されれば、行動することができる Cその都度指導されれば行動できる D再三にわたり指導されても行動できない。問題行動危険行為がある。 施設評価80% 担当教員評価20% 総合評価がDの場合は再実習						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	実習態度		◎	○	◎		50%
	記録提出		◎	○	◎		50%
履修上の注意	実習は100%の出席のみ評価の対象となる。						

科目名	からだのしくみⅡ						
科目名(英)	Body structure and function						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	山下 和美		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	介護福祉科 2年						
授業概要	介護現場の中核として存在する介護福祉士の専門性のひとつに、利用者個々人の心身の状態に応じたケアを行うことが挙げられる。この授業では、個別ケアの中核をなす『介護過程(総論・各論)』において、身体構造・心身機能をアセスメントするために必要な医学知識を学ぶ。また、『障害の理解』『生活支援技術(基本・応用)』に関連するところやからだのしくみを理解して、全人的なケアを提供する際に必要な知識の習得を目指す。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度	目標		
	○				生活支援技術の根拠となる人体の構造や機能について学び、関連した疾患の概要を説明することができる。		
	○				代表的な疾患や症状を知ったうえで、医療職との連携・協力の重要性を説明することができる。		
	○				介護サービスの提供における安全への留意点を説明することができる。		
	○				利用者の様子から、からだの状態変化に気づく観察の視点へと応用することができる。		
			○		利用者のもつ身体的、心理的、社会的側面へ配慮することができる。		
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>中央法規出版 介護福祉士養成講座14 - ころとからだのしくみ</li> <li>中央法規出版 見て覚える！介護福祉士国試ナビ2019</li> </ul>						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	入浴・清潔保持に関連したしくみ①入浴・清潔保持の意義・目的、入浴の作用			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	入浴・清潔保持に関連したしくみ②入浴・清潔保持のからだどころのしくみ			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	入浴・清潔保持に関連したしくみ③心身の機能低下が及ぼす影響			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	入浴・清潔保持に関連したしくみ④変化の気づきと対応、医療職との連携			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	排泄に関連したしくみ①排泄の意義・目的、ころのしくみ			<ul style="list-style-type: none"> <li>前単元の授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。</li> <li>教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと</li> </ul>		
	6	排泄に関連したしくみ②排尿・排便のからだのしくみ			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	排泄に関連したしくみ③心身の機能低下が及ぼす影響			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	排泄に関連したしくみ④変化の気づきと対応、医療職との連携			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	睡眠に関連したしくみ①睡眠の意義・目的、眠りのリズム			<ul style="list-style-type: none"> <li>前単元の授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。</li> <li>教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと</li> </ul>		
	10	睡眠に関連したしくみ②心身の機能低下が及ぼす影響			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	睡眠に関連したしくみ③変化の気づきと対応、医療職との連携			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	死にゆく人に関連したしくみ①「死」を理解する、「死」の定義、全人的苦痛			<ul style="list-style-type: none"> <li>前単元の授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。</li> <li>教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと</li> </ul>		
	13	死にゆく人に関連したしくみ②終末期における心身の変化とケアのポイント			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	死にゆく人に関連したしくみ③終末期から「死」までの変化と特徴			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
15	死にゆく人に関連したしくみ④「死」に対するころの理解、医療職との連携			<ul style="list-style-type: none"> <li>本単元の授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。</li> <li>教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと</li> </ul>			
評価方法	(1)授業の中で確認テストを4回実施する。(2)宿題・レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	確認テスト	◎	◎				5%
	宿題・レポート	○	◎		◎		5%
	発表・作品				◎		10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	コミュニケーション技術Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	案納 賀世子		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	介護福祉科2年・ソーシャルワーカー科2年						
授業概要	介護現場の中核として存在する介護福祉士の専門性として、1年次前期の「コミュニケーション技術Ⅰ」での基本的なコミュニケーション技術を生かし、様々な障害を持つ人に対して、障害の特性を理解し、コミュニケーションの方法を習得する。また障害の特性に応じた様々なコミュニケーションのあり方を考察することで、コミュニケーション技術が向上できる。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					障害に応じたコミュニケーション技術について学び、手話や点字の基礎知識をつけることができる	
		○				基本のコミュニケーション技術を活用し、多職種との連携・協力の重要性を説明することができる。	
		○				チームコミュニケーションのなかで、記録・「報・連・相」を身に着けることができる	
		○				障害に応じた利用者の様子から、チームでのコミュニケーション技術を活用することができる。	
			○			他者からの助言が無くても、利用者のもつ身体的、心理的、社会的側面へ配慮することができる。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	1年次のコミュニケーション技術の復習とオリエンテーション					
	2	相談・助言・指導の技法			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	利用者の意欲を引き出す技法			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	複数の利用者がある場面でのコミュニケーション技法			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	チームで行うコミュニケーション技法①:記録			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	チームで行うコミュニケーション技法②:報告・連絡・相談・会議			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	利用者と家族の意向を調整する技法			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	コミュニケーション障害のある人の対応 :視覚障害(点字)					
	9	コミュニケーション障害のある人の対応 :視覚障害(点字)					
	10	コミュニケーション障害のある人の対応 :視覚障害(点字)					
	11	コミュニケーション障害のある人の対応 :視覚障害(点字)					
	12	コミュニケーション障害のある人の対応 :聴覚障害(手話)					
	13	コミュニケーション障害のある人の対応 :聴覚障害(手話)					
	14	コミュニケーション障害のある人の対応 :聴覚障害(手話)					
15	コミュニケーション障害のある人の対応 :聴覚障害(手話)						
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				85%
	小テスト	◎	◎				10%
	授業態度・忘れ物・居眠り等				◎		5%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	医療的ケア						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	17時間	担当者	林田朋子		
実施年度	2119年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	介護福祉科2年 ・ ソーシャルワーカー科2年						
授業概要	介護福祉士は介護の中核を担う存在となり、複雑化・多様化・高度化していく介護ニーズに対応していく必要がある。 さらに業務として喀痰吸引と経管栄養が加わり、この授業では、医療職と連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得することを目的とする。						
授業形式	講義： ○	演習： △	実習：	実技： ○	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					喀痰吸引や経管栄養の医行為の一部を業として行うことになった背景などを学び説明できる	
	○					医療的ケアを安全に実施するための基礎知識を学び医療職との連携の重要性を説明できる	
	○	○				喀痰吸引に関する基礎知識、実施手順とその留意点について学び実技に応用できる	
	○	○				経管栄養に関する基礎知識、実施手順とその留意点について学び実技に応用できる	
○	○	○	○			医療的ケアの実技ができる	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>中央法規出版 介護福祉士養成講座15 医療的ケア</li> <li>中央法規出版 見て覚える！介護福祉士国試ナビ</li> </ul>						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	第1章 医療的ケア実施の基礎 第1節 医療的ケアとは			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	喀痰吸引等制度			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	第2節 安全な療養生活 救急蘇生①救急蘇生の必要性			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	救急蘇生②救急蘇生の方法 緊急時の対応			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	実技試験 救急蘇生法			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	第3節 清潔保持と感染予防①感染とは 介護職の感染予防			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	清潔保持と感染予防②消毒と滅菌 手袋・マスク等の装着法			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	健康状態の把握①身体精神の健康状態を知る			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	健康状態の把握② 演習バイタル測定			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	第2章 喀痰吸引(基礎的知識) 第1節 喀痰吸引概論①呼吸のしくみ			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	第1節 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論 ② 喀痰吸引とは			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論 ③ 人工呼吸器と吸引			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論 ④ 子どもの吸引			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論 ⑤ 利用者家族の気持ち			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	15	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論 ⑥ 急変事故発生時の対応			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	16	第2節 高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説① 物品確認			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
17	高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説② 演習			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
評価方法	(1)宿題・レポートを数回実施する。(2)グループ発表を実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。(4)実技試験を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				75%
	宿題・レポート	○	○		◎		5%
	グループワーク・発表	○	○		◎		5%
	演習	○	○		◎	△	5%
実技試験	◎	◎				10%	
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	介護過程各論Ⅱ(前期)						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	吉水 美穂		
実施年度	2019年度	実施時期	通年	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	介護福祉科 2年生						
授業概要	1年次の介護過程総論・介護過程各論Ⅰをふまえて、利用者のより生活に沿った介護過程の展開が出来るようになる。その際に、利用者の持つ生活背景や、地域の文化的特性・自然環境・時代背景等に配慮し介護過程の展開が行えるようになることを目標とする。実際に、事例や実習での経験を通して介護計画の立案や実施・評価を行い介護過程を展開する方法を身につけていく。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					介護過程の展開のうちアセスメントの方法について根拠を理解し事例に応用することができる	
		○				実習担当利用者に対してアセスメントを実践し、適切に記録することができる。	
	○					介護過程の展開のうちアセスメントから計画の立案までの一連の方法習得し実習に応用できる	
				○		担当利用者の介護計画について実習後根拠に基づき分析を行い、論文にまとめプレゼンを行う。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	情報収集の方法				実習ⅠBの担当利用者の情報	
	2	情報収集の視点					
	3	ICFの視点に基づいた情報収集について(状況シート)					
	4	介護過程の展開の方法について振り返り					
	5	アセスメントの方法について振り返り					
	6	事例検討① アセスメントの方法					
	7	個別援助計画とケアプランの違いについて(介護保険の振り返り)					
	8	介護計画の立案の方法(課題から長期目標の立案の視点)					
	9	介護計画の立案の方法(短期目標・具体的援助内容・方法)					
	10	事例検討② 個別援助計画の立案					
	11	事例検討② 個別援助計画の立案					
	12	評価、考察、再アセスメントについて振り返り					
	13	評価、考察、再アセスメントの視点・記入方法					
	14	実習に向けて介護過程の展開の進め方(スケジュール確認)					
15	試験対策						
評価方法	(1)授業中のグループワークへの参加状況 (2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				80%
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
	グループワーク			○	○		20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	介護総合演習Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	案納 賀世子		
実施年度	2019年度	実施時期	前期/通年	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	介護福祉科2年						
授業概要	①これまで学んだ知識や技術を統合して、実際場面に適用できる応用力・判断力を身につける。 ②実習後に十分な振り返りを行い、より効果的な実習を行えるようにする。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					介護福祉士としての理念、職業倫理、総合的な対応能力が身についている。	
	○					介護過程の展開が実習の場面でできる。	
テキスト・教材 参考図書	中央法規「介護総合演習・介護実習」						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	実習施設発表、定期券申請					
	2	調べ学習、自己紹介表記入					
	3	実習内容、目標設定					
	4	実習の決まりごと確認					
	5	事前挨拶・実習前審査					
	6	事前挨拶・実習前審査					
	7	プロセスレコード記入方法					
	8	カンファレンス記入方法					
	9	帰校日(実習2週目)					
	10	帰校日(実習3週目)					
	11	帰校日(実習4週目)					
	12	実習日誌清書、お礼状、学内申し送り簿の記入					
	13	実習日誌清書、お礼状、学内申し送り簿の記入					
	14	報告会準備					
15	介護実習Ⅱ 報告会						
評価方法	定期試験がないため授業、帰校日の出席、授業中の態度、意欲、努力、提出物(カンファレンスレポート、プロセスレコード、実習を終えて等)を評価対象とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
	出席				○		50%
	提出物				○		50%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、評価対象外とする						

科目名	介護福祉各論Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	吉水 美穂		
実施年度	2019年度	実施時期	通年	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	介護福祉科 2年生						
授業概要	介護の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解して、介護福祉の専門職としての能力と態度を学習する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○		○		介護におけるリスクマネジメントの方法や制度について説明できる	
	○		○	○		リスクの存在について検証し発表できる	
	○	○		○		チームケアの方法と連携職種について理解しチームでの介護福祉士の役割が何なのか 考えることができる	
	○	○		○		労働に関する法律について覚えることができる	
○	○		○		これからの介護福祉士の将来性、専門性を考えることができる。		
テキスト・教材 参考図書	中央法規「介護の基本Ⅱ」						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	介護における安全の確保			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	リスクマネジメントとは何か			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	福祉サービスに求められる安全・安心			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	事故防止のための対策			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	事故防止のための対策			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	身体拘束の廃止			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	介護福祉職に必要な感染に関する知識			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	介護福祉職に必要な感染に関する知識			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	安全な薬物療法を支える視点・連携			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	多職種連携・協働の必要性			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	多職種連携・協働に求められる基本的な能力			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	多職種連携・協働に求められる基本的な能力			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	保健・福祉・医療職の役割と機能			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	保健・福祉・医療職の役割と機能			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
15	試験対策			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
評価方法	(1)授業中のグループワークへの参加状況 (2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				80%
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
グループワーク			○	○		20%	
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	生活支援技術Ⅱ（居住環境の整備）						
科目名(英)							
単位数		時間数	10時間	担当者	田上 美里		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科						
授業概要	<p>尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるように根拠に基づいた介護実践ができるように知識・技術を学習する。 その為に住まいの役割と機能、加齢と生活空間、快適な室内空間のあり方などを学ぶ。 福祉用具について正しい知識を学び適切に使用できるように助言できるようになる。</p>						
授業形式	講義：○	演習：△	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					住まいの役割について理解し、快適な居住環境について理解する。	
	○					高齢者・障害者に居住環境の特性について説明できる。	
	○					災害時に対する備えの重要性について理解する。	
	○					介護サービスの提供においてなぜ快適な居住環境が必要なのか説明できる。	
○					住環境の整備における多職種との連携の必要性を説明できる。		
テキスト・教材 参考図書	・中央法規出版 介護福祉士養成講座 4 一介護の基本Ⅱ						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション 住まいの役割と機能			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	生活空間			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	快適な室内環境			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	安全に暮らすための生活環境			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	高齢者の住まい			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	障害者の住まい			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	居住環境の整備における多職種との連携			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	福祉用具の重要性			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	福祉用具の種類			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	適切な福祉用具を選ぶために視点			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)宿題、レポートを数回実施する。(2)定期試験の(筆記)を実施する。(3)グループワーク実施時の参加状況以上を下記の観点・割合で評価する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	小テスト	◎	◎				5%
	宿題・レポート	○	◎		◎		5%
	発表・作品				◎		10%
履修上の注意	出席が7回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	生活支援技術・応用Ⅱ(前期①)								
科目名(英)									
単位数	6単位		時間数	90時間		担当者	田上・吉水・案納・豆田		
実施年度	2019年度		実施時期	通年(前期)		実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	介護福祉科2年・ソーシャルワーカー科2年								
授業概要	障害の形態や状況に応じて、利用者のニーズに応えられる介護支援を行えるようになる。								
授業形式	講義:	○	演習:	△	実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標			
	○					国家試験過去問に正答できる。			
	○		○	○		疾患を理解した介助、安全面の配慮ができる。			
	○	○				疾患を理解した生活上の困りごとを説明できる。			
	○	○				家族や本人の背景に配慮した自分の見解を述べるができる。			
テキスト・教材 参考図書	・中央法規出版 介護福祉士養成講座 生活支援技術 ・中央法規出版 見て覚える！介護福祉士国試ナビ								
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示			
	1	経営、家計(吉水)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	2	経営、家計(吉水)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	3	経営、家計(吉水)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	4	災害(吉水)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	5	災害(吉水)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	6	災害(吉水)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	7	運動機能障害(豆田)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	8	運動機能障害(豆田)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	9	運動機能障害(豆田)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	10	運動機能障害(豆田)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	11	運動機能障害(豆田)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	12	心臓機能障害(案納)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	13	心臓機能障害(案納)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	14	心臓機能障害(案納)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	15	心臓機能障害(案納)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)演習を行いレポートを作成する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。								
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験	○					50%		
	演習		○	○	○		20%		
	レポート	○	○		○		30%		
履修上の注意	演習時忘れ物をしないこと。評価に関わる項目で、意欲的な取り組みが見られない場合は、欠課扱いとする。								

科目名	生活支援技術・応用Ⅱ(前期②)								
科目名(英)									
単位数	6単位		時間数	90時間		担当者	田上・吉水・案納・豆田		
実施年度	2019年度		実施時期	通年(前期)		実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	介護福祉科2年・ソーシャルワーカー科2年								
授業概要	障害の形態や状況に応じて、利用者のニーズに応えられる介護支援を行えるようになる。								
授業形式	講義:	○	演習:	△	実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標			
	○					国家試験過去問に正答できる。			
	○		○	○		疾患を理解した介助、安全面の配慮ができる。			
	○	○				疾患を理解した生活上の困りごとを説明できる。			
	○	○				家族や本人の背景に配慮した自分の見解を述べる事ができる。			
テキスト・教材 参考図書	・中央法規出版 介護福祉士養成講座 生活支援技術 ・中央法規出版 見て覚える！介護福祉士国試ナビ								
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示			
	16	呼吸器機能障害(案納)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	17	呼吸器機能障害(案納)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	18	呼吸器機能障害(案納)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	19	呼吸器機能障害(案納)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	20	知的障害(田上)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	21	知的障害(田上)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	22	知的障害(田上)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	23	知的障害(田上)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	24	発達障害(吉水)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	25	発達障害(吉水)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	26	発達障害(吉水)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	27	発達障害(吉水)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	28	重症心身障害(豆田)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
29	重症心身障害(豆田)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
30	重症心身障害(豆田)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)演習を行いレポートを作成する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。								
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験	○					50%		
	演習		○	○	○		20%		
	レポート	○	○		○		30%		
履修上の注意	演習時忘れ物をしないこと。評価に関わる項目で、意欲的な取り組みが見られない場合は、欠課扱いとする。								

科目名	ケア・コミュニケーション								
科目名(英)									
単位数	2		時間数	15		担当者	小川智子		
実施年度	2019		実施時期	前期		実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	介護福祉科2年								
授業概要	ケアのプロセスとしてのコミュニケーション力を身につけ 被援助者や職員との対人関係を構築する能力を養うために 感じる力や考える力を磨き、思いやりと愛情を持って表現出来る介護職を目指す								
授業形式	講義:	○	演習:	△	実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標			
		○				被援助者との関係を築くコミュニケーションの神髄について理解できる			
		○				好感・信頼感を高める非言語コミュニケーションについて理解し実行することが出来る			
	○					好感・信頼感を高める言語コミュニケーションについて理解し活用することが出来る			
		○				チームの一員として仕事を進めるポイントを理解し実行することが出来る			
				○		愛される介護職の立ち居振る舞いについて理解し実行することが出来る			
テキスト・教材 参考図書	ケア・コミュニケーション (麻生塾ケア・コミュニケーション研究会 編著)								
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示			
	1	授業概要と自己紹介演習							
	2	2-1好感・信頼感を高めるコミュニケーション①				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	3	2-2好感・信頼感を高めるコミュニケーション②				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	4	2-1.2 まとめと演習				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	5	2-3敬意を伝えるコミュニケーション				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	6	2-3敬語①				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	7	2-3敬語②まとめと演習				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	8	4-1チームの一員として仕事を進める①				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	9	4-1チームの一員として仕事を進める②				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	10	4-1まとめと演習				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	11	4-2建設的でさわやかに対話する①				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	12	4-2建設的でさわやかに対話する②				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	13	4-2建設的でさわやかに対話する③				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	14	4-2まとめと演習				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
15	演習と総まとめ(冠婚葬祭マナー)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
評価方法	(1)授業の中でグループワークや発表を数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。								
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験	◎	◎				70%		
	発表				◎		30%		
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。								